

沖縄の地域社会における写真館の社会・文化的役割についての考察

大阪芸術大学 大学院 嘱託助手 李 京彦

沖縄は、独特な社会的・地理的・歴史的な背景を持っており、それにより形成された沖縄の写真館業界・写真館文化は、日本国内の他の地域とは異なる、特色のある地域社会とのかかわりを持っている。本研究の目的は、写真館という商業施設で行われる「儀式的行為」である写真撮影が、沖縄の社会・文化とどのような関係を持っているかを明らかにすることにある。

1. 沖縄における写真館の登場と変遷

沖縄に初めて写真館ができたのは、1896年または1899年とされている。その直後、沖縄から海外への移民、海外へ出稼ぎに行く人が増え、パスポート写真など、写真の需要が急激に増えた。それに連れ、パスポート用写真とともに、家族・友人などの記念写真・肖像写真などを移民先へ持っていくことが流行し、沖縄全体で写真館営業が盛んであった。

1930年代から太平洋戦争までは、物資の統制で商業活動が停滞していたが、出征軍人による写真の需要があったため、写真館は他の商業に比べて命脈を保つことができた。1943~44年には日本軍が沖縄につめかけ、写真館の前は門前市をなしたが、1944年の大空襲で一時的な好況が終わった。戦争により大抵の写真館がなくなったが、ブラジルやハワイなどに移住した家族に「安否確認」のために送る家族写真などを撮影する出張写真業務だけは残っていた。しかし、沖縄各地の米軍部隊のなかやその近隣に、米軍やその家族を顧客とする外国人の写真館・DP店が多くでき、沖縄の若者たちがそこで働き、1950年代から独立し、現在の沖縄写真館業界の基盤となった。

1950年代半ばには観光バスが導入され、「観光写真」が写真館の業務となり、1960年代半ばからは沖縄各地で写真師組合が結成され、日本本土の写真師団体と交流をし始めた。それまで、沖縄で行われた「通過儀礼」写真は記念写真に近い形態になっていたが、本土との交流により「儀式的行為」になっている写真撮影がより活発に行われることになった。そのような写真撮影には沖縄の文化的特色があらわれ、裸の誕生100日記念写真や13歳記念写真などが今日までも写真館の主な商品となっている。

2000年代からは沖縄の若者や、沖縄を訪ねる外国人の記念写真の需要が増え、琉球伝統衣装や着物を写真館で貸し出しする場面が多くなった。また2010年頃からは近隣国と沖縄を繋ぐ安価な航空路線が増え、観光写真、特に「新婚旅行写真」の需要が増えつつある。

2. 沖縄における写真館業界の3つの時代区分

上述したように、沖縄の写真館の歴史は、その特徴により大きく3つの時期に分けることができる。第1期は1900年頃から1945年までで、パスポート写真などの実用的な写真、記念写真、兵士の写真が写真館の主な業務となっていた。第2期は終戦後から1990年代末までで、沖縄の地域・社会・政治的特性がよく

表れている。米軍部隊が地域社会の経済に大きな影響を与えることにより、日本本土よりも早い段階に多くの大手DP店が登場するなど、戦争でその力を失っていた写真館業界が素早く再建できた。また、日本本土の写真師協会などとの交流により、「儀式化」された写真行為が本格的に沖縄に伝わり、「儀式的行為」としての写真撮影が行われるようになった。第3期は2000年頃から現在までで、沖縄の住民、米軍やその家族などを主な顧客としていた写真館が、観光客を主な顧客とし始めた時期である。特に2010年頃からは、沖縄の写真館が韓国や台湾などからの新婚旅行客を顧客としており、また韓国や台湾の写真師や旅行会社などと協力する場合も増えつつある。

すなわち、第1期、行政的要求により始まった沖縄の写真館は記念写真までその営業領域を広げ、第2期にその地域・社会の特徴に合わせた文化を生み出し、日本本土の写真館が持つ普遍性も取り入れた。また、第3期には、少ない人口による限界を克服するために、写真館が観光産業の一部として、観光商品としての写真にも力を注いでいる。

3. 沖縄における写真館の地域的特徴

沖縄の写真館は地域により、その業務の内容や主な顧客に違いがある。沖縄の写真館を地域的に分けると、那覇市を中心とした南部、沖縄市を中心とした中部、名護市を中心とした北部に分けることができる。

南部の那覇地域は沖縄最大の都市で人口密度が高く、日本本土のように、地域住民を顧客とした結婚式、通過儀礼記念写真、商品写真などが主な業務である。中部は、米軍基地やその家族が多く居住する地域で、彼らの記念写真や、幼稚園・学校写真を主な業務としてきた。北部（名護地域）は一般的な写真館業務を行い、また周辺の観光地を用いた「新婚旅行写真」（屋外撮影）を主な業務としている写真館が多い。また、放送局や新聞社などが密集している那覇から距離が遠く、放送局や新聞社の北部地域ニュース取材を写真館が担当する場合もある。

まとめ：沖縄の地域社会における写真館の役割

沖縄の写真館文化は、「行政的要求」からはじまり、記念写真・肖像写真などにその範囲が広まった（第1期）。戦後、米軍基地周辺に多くの写真館やDP店ができ、日本本土から入ってきた「写真館文化」を受け入れた（第2期）。1987年には沖縄自動車道路が開通し、地域による業務の違いがなくなりつつある。

今日沖縄の地域社会で写真館が担当している普遍的な役割のなか、琉球伝統文化や日本の中の「外国」のような印象を、写真撮影という行為により視覚的に守っているという点に注目しなければならない。それは人々の心の中に「沖縄」という像を浮かび上がらせる役割をする。そして、それは2010年代に写真館で写真を撮影する行為を一つの観光商品にしようとする沖縄各地の写真館の経営戦略の基でもある。